

世界遺産 真言宗御室派 総本山



Extended 3D Map
拡張 3D マップ

E3D
Map



QRコードから
3Dを閲覧する
ことが出来ます



- ◎お車でお越しの方…名神京都南インター、東インターより約40分
- ◎バスでお越しの方…JR京都駅から市バス26系統、京阪三条から市バス10系統・59系統、阪急大宮駅から市バス26系統、JRバス高雄・周山行
- ◎電車でお越しの方…京福電鉄北野線「御室仁和寺」駅下車徒歩約3分

拝観受付時間 〒616-8092
3～11月 / 9:00～16:30 京都府京都市右京区御室大内33
12～2月 / 9:00～16:00 TEL / 075-461-1155 FAX / 075-464-4070

information



令和元年度
文化財多言語解説整備事業



仁和寺
について



御室桜と
五重塔

世界遺産
真言宗御室派 総本山 仁和寺

仁和寺は仁和4年(888)に創建された寺院であり、現在は真言宗御室派の総本山です。境内には五重塔や二王門など江戸時代に建立された建造物が並びます。同時期に植えられた御室桜は4月中旬に見頃を迎えますが、建物と同様、当時と同じ姿を現在に伝えています。御室桜は古くから庶民の桜として親しまれ、数多くの和歌に詠われております。仁和寺は平成6年には世界遺産に登録されました。



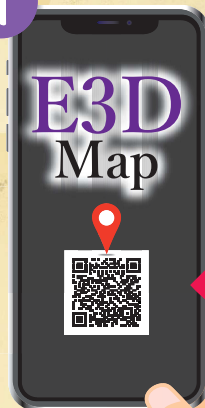
宸殿

How to use it?!

Extended 3D Map
拡張 3D マップ

E3D
Map の
使い方

1




2



3 動画と建物内部
3Dを閲覧する
ことができます。

1 QRコードをスキャン。

2  をタップして見たい
エリアを選択

3 マップにあるボタンをタップしてご覧ください。



スマホや
タブレット、
PCから
ご覧いただけ
ます!



御殿群

仁和寺正面の二王門をくぐり、左手にあるのが御殿である。仁和寺は仁和4年(888年)に宇多天皇により創建されたのち、親王・法親王などが門跡を相承し、歴代天皇の厚い帰依を受けたことから、皇室とつながりが深い。御殿は、歴代の門跡の御座所として位置づけられており、広い境内の中でも、格式が高く宮殿風の雅やかな趣のある建物が並ぶ、特別な領域である。渡り廊下を歩き、次々に現れる書院造りの建物や豪華な室内の装飾を鑑賞したり、趣向を凝らした庭園を望むことができる。かつて、仁和寺文化という言葉があったように、文化サロンとして芸術や文化の発信地であったとされる。御殿の中には、真言の教えとともに受け継がれた、仁和寺の門跡寺院としての歴史と文化が凝縮されている。



F 遼廓亭 重要文化財

江戸時代の日本画家・尾形光琳の屋敷から移築された。二畳半台目の茶席とその奥に四畳半二間続きの水屋と広間がある。深みのある錆壁、炬先の板壁、斜壁と三角地板、そして窓の取り方など、どこを取っても洗練された光琳のセンスが光る。随所に工夫が施されており、光琳ならではの斬新で趣向を凝らした意匠である。

E 霊明殿

霊明殿は御殿内の唯一の仏堂で、本尊は国宝「薬師如来坐像」。仁和寺歴代門跡の位牌をおまつりしている。明治44年(1911年)竣工。周囲の建物と調和するように細部にわたり設計されており、造形美が素晴らしい。檜皮葺の屋根の上には、見事な宝珠が安置されている。

A 御殿入口(大玄関)

御殿群の南端に建つ。秀麗な彫刻が施され、華やかさと威厳を備えた玄関である。大玄関の前庭には丹精込めて育て上げられた松が植えられており訪れる人々を出迎えてくれる。



VR



C 黒書院

宸殿の西側に建つ。明治20年に御殿が焼失したため、安井門跡蓮華光院の寝殿の遺構を移築し、明治42(1909)年に完成する。方丈型で周囲に舞良戸を建てた、書院らしく落ち着いた外観である。



VR



B 白書院

白書院は、明治20年(1887年)に御殿が焼失したため、3年後の明治23年(1890年)に仮宸殿として建てられた。その後、宸殿が再建されると「白書院」と呼ばれるようになる。



VR



G 飛濤亭 重要文化財

江戸末期に光格天皇の好みで建てられた草庵風の茶席。北庭の築山に建つ姿は、庭園の美しさをひときわ際立たせる。内部は四畳半の席で、台目幅の踏込床があり、床柱を塗り廻した洞床(ぼらどこ)が特徴的。床前の貴人畳上の天井は、杉へぎ板の網代組み、点前座上はこれより一段低い蒲天井、外客席上は竹垂木に竹小舞の化粧屋根裏をみせる。



VR



D 宸殿

御殿の中で最も重要な建物で「宸殿(しんでん)」と呼ぶ。宸殿は江戸時代に仁和寺を再興した際、御所から下賜され移築されたが、明治20年に焼失し、現在の建物は、大正3年(1914年)に京都府技師、亀岡末吉の手により再建されたものである。



VR



I 皇族門

大玄関から東にのびる扉の中間に構える門で、御殿群の前庭と内庭を仕切る。木割が細かく欄間に透かし彫りが施された繊細な意匠が施された門である。

VR



H 勅使門

天皇の勅使をお迎えするための門。鳳凰の尾羽根、牡丹唐草、宝相華唐草文様など、細かな意匠が施されている。古典的なモチーフと幾何学模様が混在した透かし彫りが、門全体を流れるように埋め尽くし見事である。亀岡末吉の素晴らしい感覚が発揮された見応えのある大型の門である。

